

7 地域医療福祉計画

(1) 背景と取組みの考え方

ア 背景

市では、豊かな長寿社会に向けたまちづくり基本方針において、将来都市像を「元気で、自分らしく、生涯暮らせるまち 湘南 茅ヶ崎」とし、施策の柱として、「子どもを産み育てやすく子育て層がすみやすいまち」「高齢者が生きがいを持って活躍できるまち」「健康やかな生活を営み続けることができるまち」を設定し、豊かな長寿社会の実現に向けた取組みを推進しています。

また、UR都市機構では、平成26年度から、住み慣れたまちで、いつまでも「ずっと暮らし続けられる」住まい・コミュニティを目標に、平成27年度に、浜見平地区もその取組みを行う団地として位置づけ、以下の3つのコンセプトを組み合わせ、地域医療福祉拠点化を目指します。

- ・医療・介護・子育て施設の誘致
- ・各世代のニーズに配慮した住宅やサービス導入
- ・高齢者も子育て世代も安心できるコミュニティ

このような状況を踏まえ、浜見平地区まちづくり計画において、計画の目標の安全・安心なまちづくり、高齢期・子育て期の安心居住環境づくりにおいて、「安心して住み続けられる地域医療や福祉が充実したまちづくりを行う」を掲げており、UR都市機構と連携して、地域医療福祉に取り組めます。

イ 取組みの考え方

地域医療福祉計画では、地域の関係者の方々と連携・協力しながら、豊かな屋外空間を備え、多くの方々が住まう浜見平地区を“地域の資源”として活用し、地域に必要な住宅・施設・サービスの整備を推進していきます。計画の主な取組みは、次の3つです。

①地域における医療・福祉施設等の充実の推進

医療・福祉施設等を誘致し、地域における医療・福祉施設等の充実を推進します。

②高齢者等多様な世代に対応した居住環境の整備の推進

高齢者の方々が安全・安心に住み続けられるよう工夫した住宅や多世代のニーズに合った住宅を整備しています。また、共用部のバリアフリー改修や見守りサービスの提供も進めます。

③若者世帯・子育て世帯等を含むコミュニティ形成の推進

屋外空間や、賃貸施設、集会所等を活用し、多世代交流の機会の創出や生活支援サービス機能の導入を進めます。

(2) 整備誘導方針

浜見平地区では、生活拠点ゾーンに医療モールが整備され、公園・グラウンドや緑道の整備が進められています。地域医療福祉計画の検討にあたっては、これら施設との連携を図りながらサービスの充実を進めて行くことが必要であり、以下の方針を踏まえた整備を誘導するものとします。

●生活拠点ゾーンとの連携による機能の充実

- ・浜見平地区では、既に、生活拠点ゾーンに地域包括支援センター等の公共施設や医療モールが整備されています。
- ・浜見平地区全体の地域医療福祉計画の推進に向け、引き続き、公共施設整備や民間住宅及び商業施設の整備に際しては、健康増進につながる施設の誘致や整備済施設との連携による地域の生活環境の向上を図っていきます。

●住み慣れた地区内での生活の充実

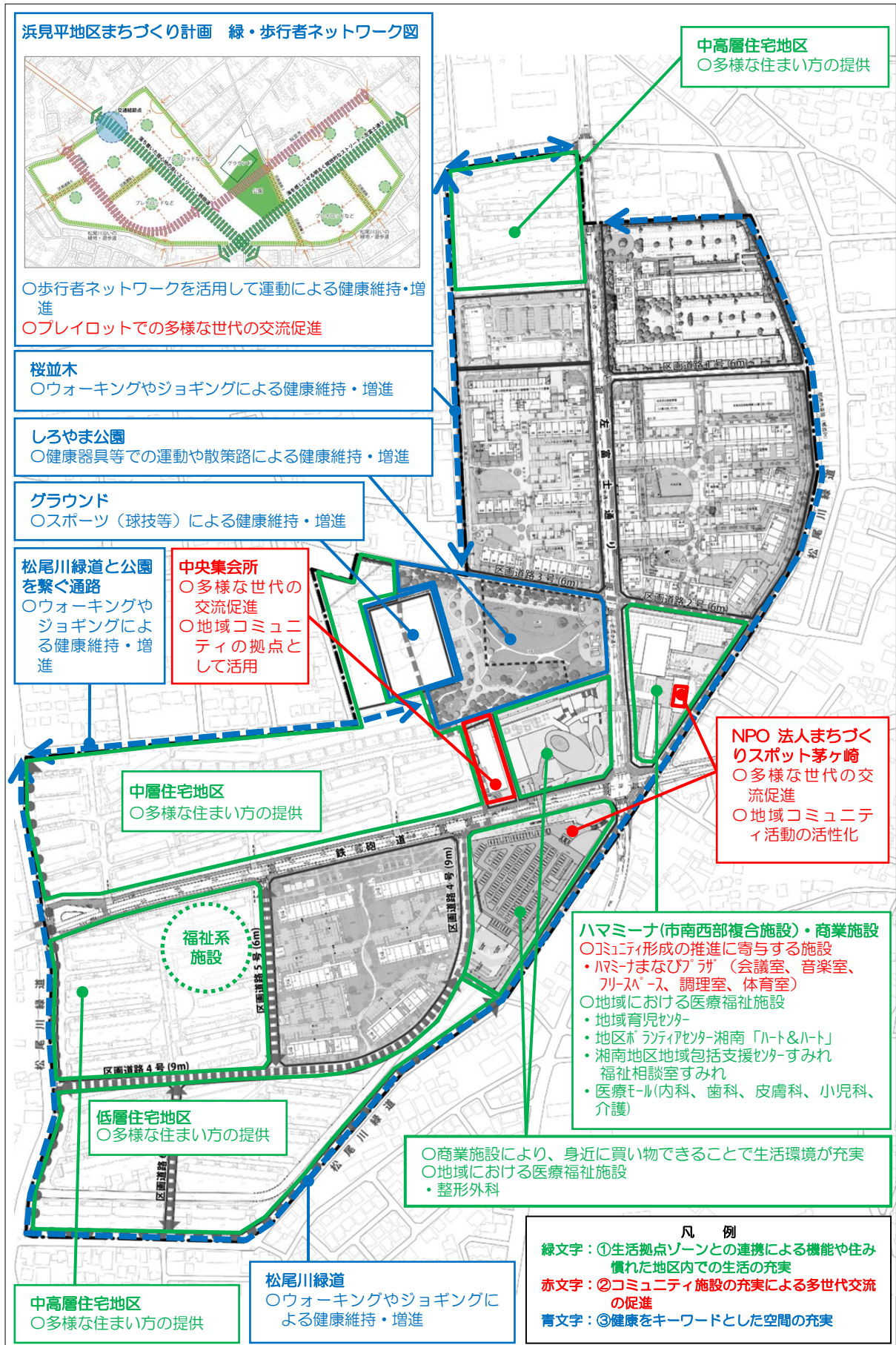
- ・市南西部地域は、特別養護老人ホームやディケア施設等の介護福祉施設の立地が比較的進んでいます。
- ・しかし、浜見平地区は建替えが進んでいますが、依然として高齢化率は高く、引きこもりや認知症患者の増加が課題として挙げられています。
- ・高齢者の方が安全に住み続けられるよう工夫した住宅や、在宅医療、看護、介護サービスが受けられ、安心して住み続けられる環境づくりを検討します。

●コミュニティ施設の充実による多世代交流の促進

- ・ハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）には、地区ボランティアセンター、地域包括支援センターすみれ、福祉相談室、体育室や図書室、音楽室等のあるまなびプラザ、浜見平保育園が整備されています。
- ・また、平成 27 年 3 月に設立した NPO まちづくりスポット茅ヶ崎の拠点である「まちスポ茅ヶ崎」に加え、平成 30 年度には中央集会所が整備されることが予定されており、これらの施設が連携することにより、多世代交流の促進を図ります。

●健康をキーワードとした空間の充実

- ・浜見平地区では、健康増進につながる公園・グラウンドや緑道、集合住宅内の広場や街角広場等の屋外空間の整備が進められています。
- ・これら施設と公共施設や商業施設をネットワーク化させ、四季の変化を楽しめる、歩いて快適な歩行者空間を充実させていくとともに、年齢に応じたスポーツ施設の整備により、健康増進と認知症予防を検討します。



※平成 30 年 3 月時点での整備内容及び計画内容であり、変更することがあります。

■浜見平地区全体での地域医療福祉の取組み

(3) 導入機能の検討

地域医療福祉計画の3つの取り組み考え方にに基づき、導入機能について整理すると以下のようになります。これら機能の組み合わせにより、効果的な整備を検討します。

ア 地域における医療福祉施設等の充実の推進

生活拠点ゾーンにおける医療モールの整備及び周辺地域における介護施設の整備状況を踏まえながら、住み慣れた地区で安心して暮らせるよう、施設の導入を検討します。

イ 高齢者等多様な世代に対応した居住環境の整備の推進

住宅・住環境整備計画における世帯向け住宅や若者向け住宅、子育て世帯向け住宅に加え、アクティブシニアを対象とした住宅やみまもりサービス付き住宅等、高齢者にやさしい住まいの整備を検討します。

また、高齢者向け住宅の整備に合わせ、コミュニティの場となるサロンや高齢者向けフィットネス等の「共」の空間を併設することを検討します。

(例示)

- ・健康寿命サポート住宅
- ・サービス付き高齢者向け住宅
- ・高齢者向けみまもり住宅
- ・交流スペース（サロン、高齢者向けフィットネス） 等

ウ 若者世帯・子育て世帯等を含むコミュニティ形成の推進

生活拠点ゾーンにおけるハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）やNPOの活動拠点に加え、子育て支援施設やスポーツ施設等の整備を検討するとともに、鉄砲道沿道のにぎわいづくりと多世代交流を検討し、生活拠点ゾーンから柳島エリアへの連続性を強化します。

また、茅産茅消のコミュニティ食堂や、緑道等への健康遊具の設置、医療機関と連携した屋外リハビリコースの検討、認知症を予防するハーブ等の薬草による植栽等、健康増進と多様な交流を支援します。

(例示)

- ・鉄砲道沿道の貸スペース（ギャラリー、カフェ等のチャレンジショップ）
- ・コ・ワーキングスペースと保育
- ・柳島農家との連携による市民農園やコミュニティ食堂
- ・健康増進のフィットネス
- ・屋外空間を活用したリハビリテーションと交流の場 等